

「地域づくりと広報について」実施報告

三重県では、住民、事業者、市町、県その他の多様な主体のみなさんが協働して地域づくりを推進することにより、個性豊かで活力ある地域社会の実現をめざすことを目的に、「三重県地域づくり推進条例」を制定しているところです。現在、地域の多様な主体のみなさんが特色ある自然や歴史、文化などを活用して取り組む地域づくりを基本とした「**美し国おこし・三重**」の取り組みを2009年（平成21年）から2014年（平成26年）までの6年間にわたって展開し、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、自立・持続可能な地域づくりへとつなげていくこととしています。

また、県では、広報紙「**県政だより みえ**」やテレビ、ラジオといったマスメディアを通じて、県民のみなさんに様々な県の情報をお届けしていますが、情報通信技術の進展等に伴い情報入手方法が多様化するなかで、より効果的な情報発信に努めていく必要があります。

そこで、今後、これらの活動を進めていくうえでの貴重な資料として活用させていただくため、アンケートを実施いたしました。

アンケートにご協力をいただきましたe-モニターのみなさんにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおり取りまとめましたので、報告します。

記

アンケート概要

- 1 実施期間 平成22年10月14日から31日 午前0時まで
- 2 回答率 67.6%
- 3 回答者属性

【性別】

	男 性	女 性
回答者数	501名	421名
構成比	54.3%	45.7%

【年齢階層別】

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代 以 上
回答者数	80 名	216 名	243 名	200 名	132 名	51 名
構 成 比	8.7%	23.4%	26.4%	21.7%	14.3%	5.5%

【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	441 名	228 名	123 名	97 名	33 名
構 成 比	47.8%	24.7%	13.3%	10.5%	3.6%

構成比については、小数点第二位を四捨五入しているため、合計は 100% になりません。

北勢・・・四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中南勢・・・津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩・・・伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀・・・名張市、伊賀市

東紀州・・・尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

アンケート結果の概要

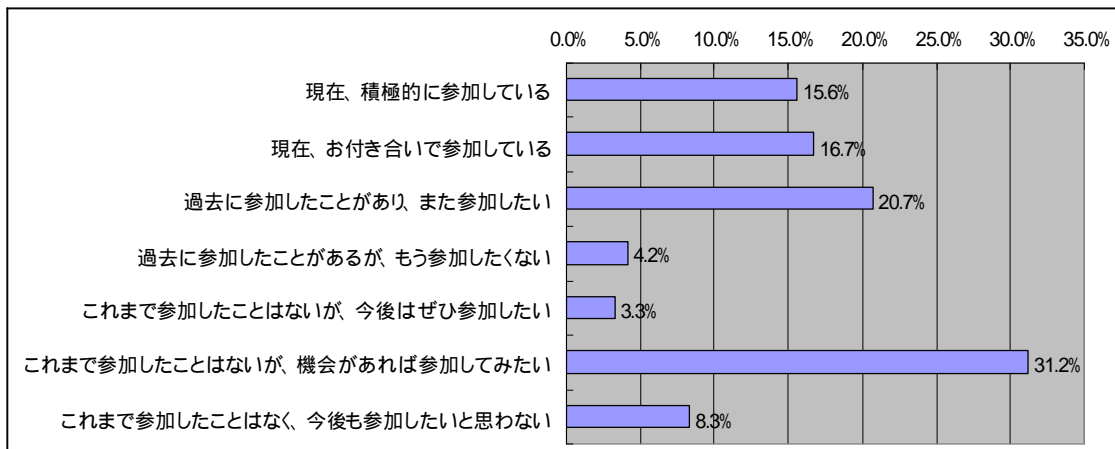
【設問1 地域活動への参加状況】

あなたは、地域で取り組む様々な活動に参加していますか（されたことがありますか）。

【選択肢】

- ・現在、積極的に参加している。
- ・現在、お付き合いで参加している。
- ・過去に参加したことがあり、また参加したい。
- ・過去に参加したことがあるが、もう参加したくない。
- ・これまで参加したことはないが、今後はぜひ参加したい。
- ・これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい。
- ・これまで参加したことはなく、今後も参加したいと思わない。

〈図1. 地域活動への参加状況〉



【設問2 活動している(した)活動】

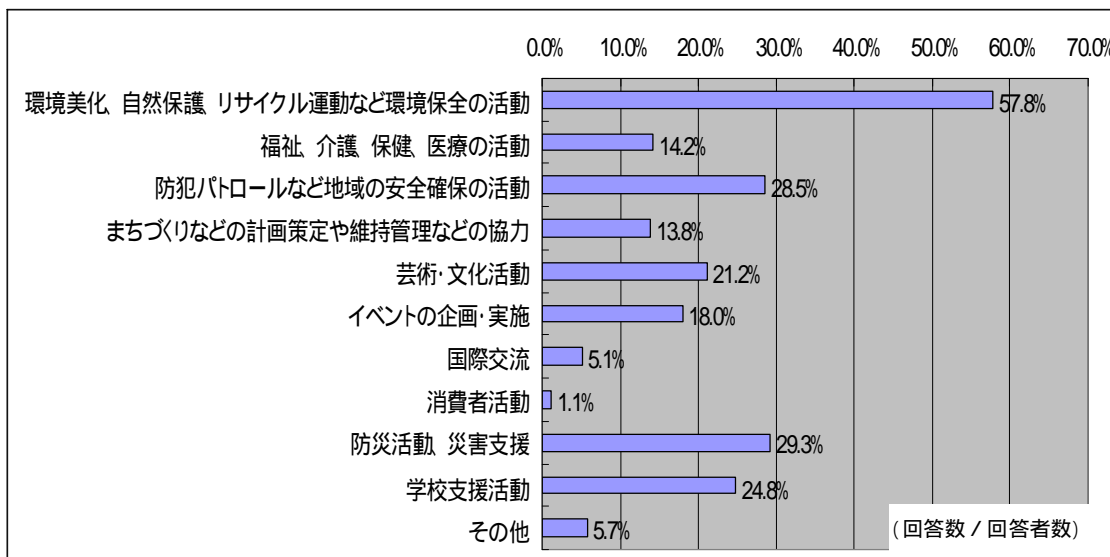
(設問1で参加したことがある方を対象)あなたは、どのような地域活動に参加していますか(参加されましたか)。

(複数回答)

【選択肢】

- ・環境美化、自然保護、リサイクル運動などの環境保全の活動
- ・福祉、介護、保健、医療の活動
- ・防犯パトロールなど地域の安全確保の活動
- ・まちづくりなどの計画策定や維持管理などの協力
- ・芸術・文化活動
- ・イベントの企画・実施
- ・国際交流
- ・消費者活動
- ・防災活動、災害支援
- ・学校支援活動
- ・その他

《図2. 活動している(した)活動》



【設問3 県民が知りたい県情報の分析】

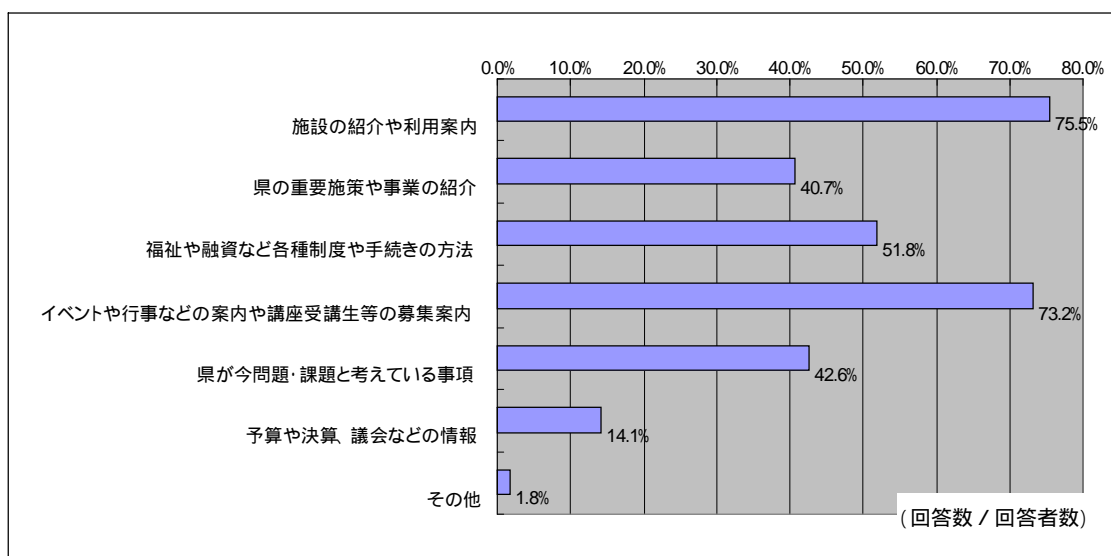
あなたは県に関する情報で、どのような情報が知りたいですか。

(主なものを3つ選択)

【選択肢】

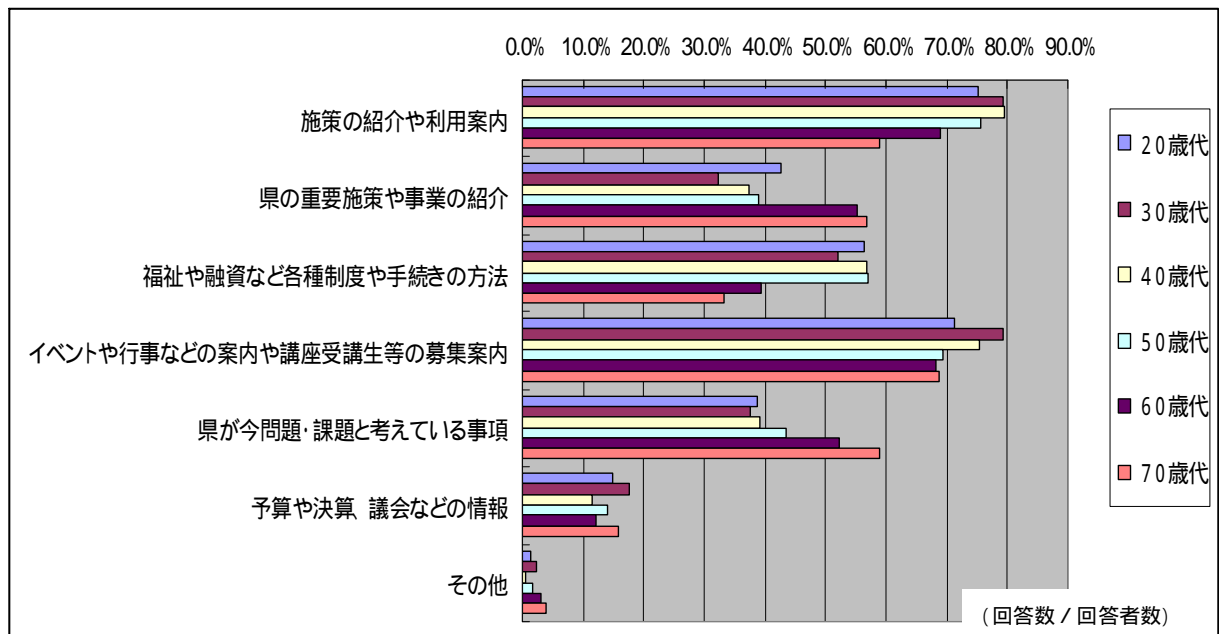
- ・施設の紹介や利用案内
- ・県の重要施策や事業の紹介
- ・福祉や融資など各種制度や手続きの方法
- ・イベントや行事などの案内や講座受講生等の募集案内
- ・県が今問題・課題と考えている事項
- ・予算や決算、議会などの情報
- ・その他

《図3. 県民が知りたい県情報(全体)》



県民の皆さんが知りたい県の情報については、「施設の紹介や利用案内」が75.5%と最も多く、次いで「イベントや行事などの案内や講座受講生等の募集案内」が73.2%、「福祉や融資など各種制度や手続きの方法」が51.8%となっています。

《図4. 県民が知りたい県情報(年齢階層別)》



各年代とも、「施設の紹介や利用案内」、「イベントや行事などの案内や講座受講生等の募集案内」を希望する声が多くなっていますが、60歳代以上の方については、「県の重要施策や事業の紹介」、「県が今問題・課題と考えている事項」を選択した方が5割を超えています。

今回のアンケート結果では、県民の皆さんの生活や趣味、娯楽等に密接に関わるような情報が上位にランクされ、「県の重要施策や事業の紹介」(40.7%)、「県が今問題・課題と考えている事項」(42.6%)など、県政に関する情報は5割を下回っています。

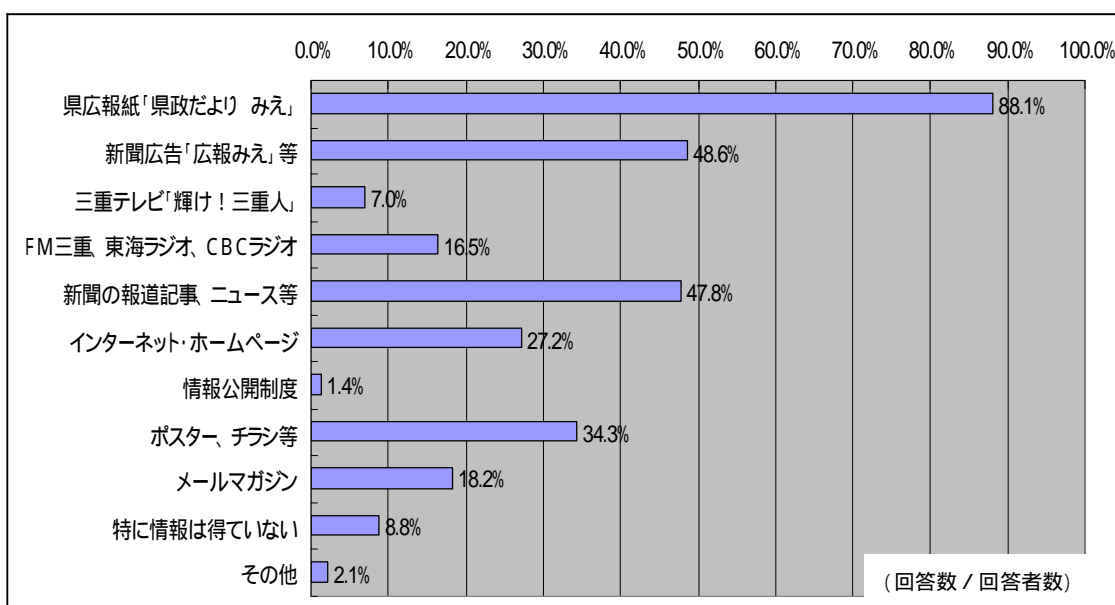
【設問4 現在の県情報等の入手方法の分析】

あなたは県が行っている事業やイベントなどの県情報について、どこから情報を得ていますか。(主なものを3つ選択)

【選択肢】

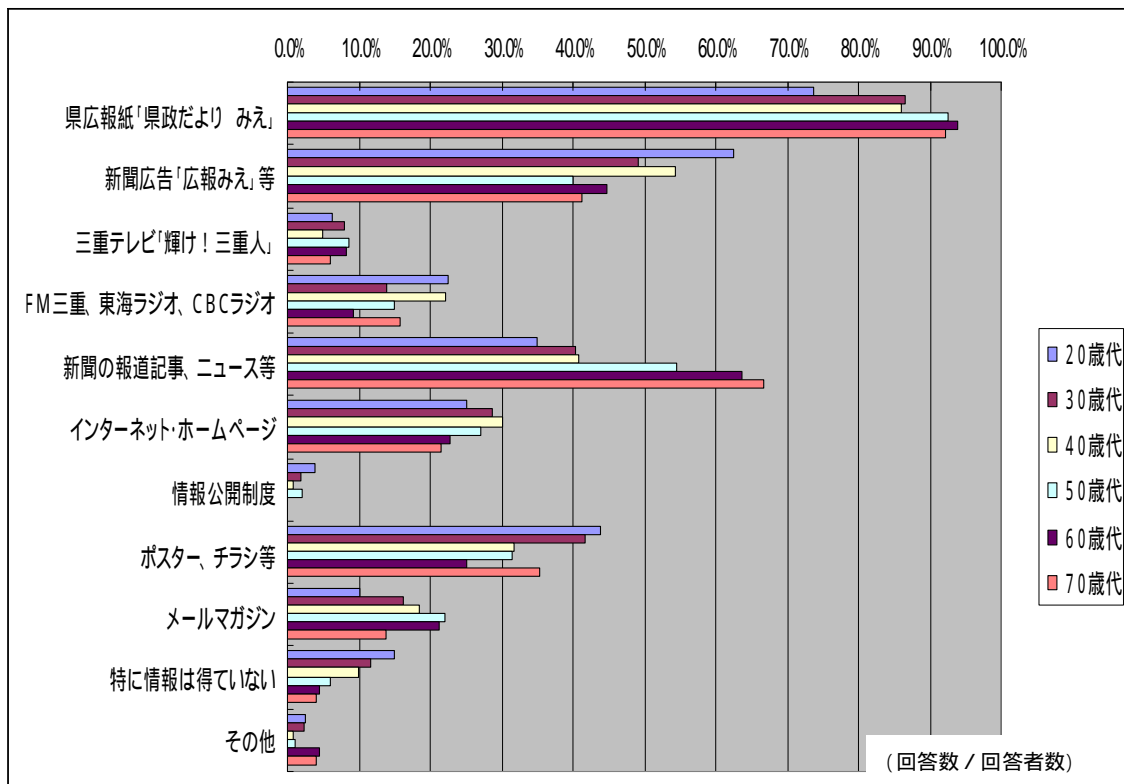
- ・ 県広報紙「県政だより みえ」
- ・ 新聞広告「広報みえ」など
- ・ 三重テレビ「輝け！三重人」(金曜日 22時15分から 22時30分)
- ・ FM三重、東海ラジオ、CBCラジオ「三重県からのお知らせ」「こんにちは三重県です」など
- ・ 新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど
- ・ 県庁関係のインターネットホームページなど
- ・ 情報公開制度(公文書開示請求)の利用
- ・ ポスターやチラシ、掲示板など
- ・ メールマガジン
- ・ 特に情報は得ていない
- ・ その他

《図5. 県情報の入手方法(全体)》



県の事業・施策の情報源については、「県広報紙『県政だより みえ』」が88.1%と最も多く、次いで「新聞広告『広報みえ』など」が48.6%、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど」が47.8%となっています。

《図6. 県情報の入手方法(年齢階層別)》



各年代とも、「県広報紙『県政だより みえ』」がトップにランクされていますが、50歳代以上は、その割合が9割を超えています。また、20歳代から40歳代までは、「新聞広告『広報みえ』など」が2位にランクされていますが、50歳代以上は、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど」が2位にランクされています。

今回のアンケート結果からも、「県広報紙『県政だより みえ』」については、県民の約9割弱の方が情報入手方法として選択していることから、基幹的広報であると言えます。

また、新聞広告や報道記事、ニュース等が約5割前後で続いていることから、マスメディアを活用した広報媒体は効果が高いものと言えます。しかし、新聞広告は、掲載量、掲載回数を増やすためにはコストがかさみ、報道記事、ニュース等は、情報の採用、報道の決定権が媒体側にあり、県民や媒体が興味を引くニュース等が優先されるなどの課題があります。

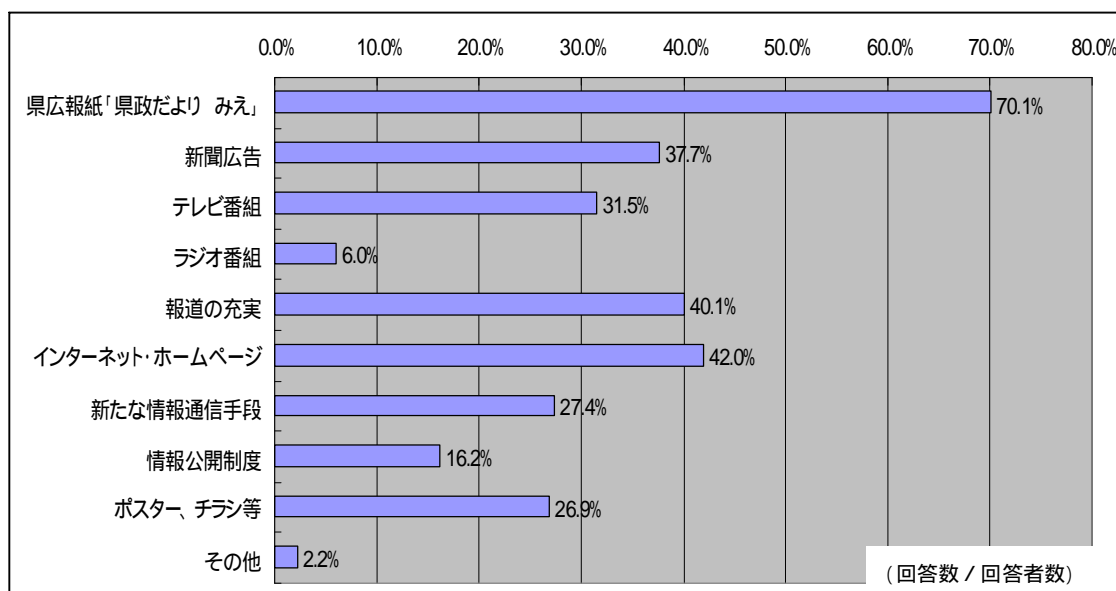
【設問5 今後活用すべき広報手段の検討】

今後、充実をはかるべき県の情報提供の方法は、どのような方法が良いとお考え
 でしょうか。(主なものを3つ選択)

【選択肢】

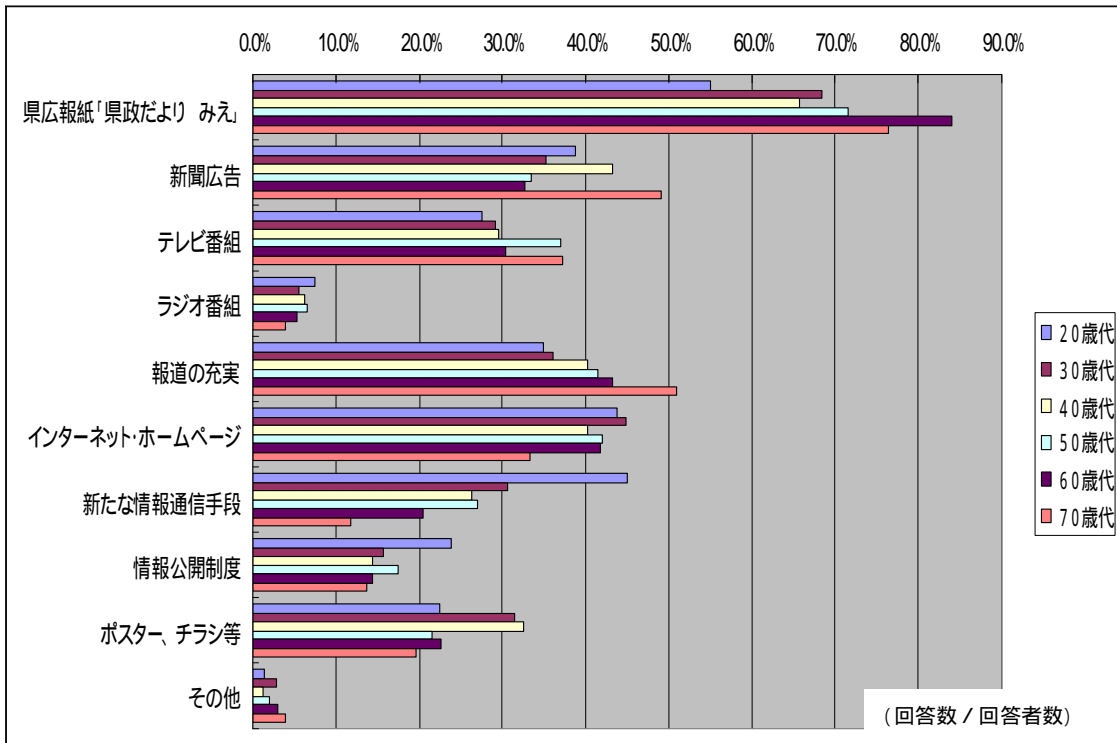
- ・ 県広報紙「県政だより みえ」の充実
- ・ 新聞広告の充実
- ・ 県提供のテレビ番組の充実
- ・ 県提供のラジオ番組の充実
- ・ 報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実
- ・ 県庁関係のインターネットホームページの充実
- ・ 新たな情報通信手段(地上デジタル放送、ツイッターなど)の活用
- ・ 情報公開制度の充実
- ・ ポスターやチラシ、掲示板などの作成
- ・ その他

《図7. 今後活用すべき広報媒体(全体)》



今後、充実をはかるべき広報媒体については、「県広報紙『県政だより みえ』」が70.1%と最も多く、次いで「県庁関係のインターネットホームページの充実」が42.0%、「報道の充実」が40.1%となっています。

《図8. 今後活用すべき広報媒体(年齢階層別)》



各年代とも、「県広報紙『県政だより みえ』」の充実を望む声がトップとなっていますが、年齢が高くなるにつれ、その傾向が高まっています。逆に、年齢が若い方は、「県庁関係のインターネットホームページの充実」、「新たな情報通信手段（地上デジタル放送、ツイッターなど）の活用」を望む声が相対的に高くなっています。

特に、「県庁関係のインターネットホームページの充実」については、現在の情報入手媒体としては27.2%でありながら、充実を望む声が42.0%あり、後述の自由記載でも、検索のしやすさや内容の充実を求める意見も多く、改善の余地が高いように思われます。インターネットも普及し、多くの県民が利用している媒体であることから、画面レイアウトやユニバーサルデザイン化など、県民の皆さんが利用しやすいように改良を加えていく必要があります。

また、「新たな情報通信手段（地上デジタル放送等）の活用」を望む声も3割弱あり、2011年7月の地上デジタル放送完全移行に向けて、広報媒体としての活用方法などを調査、研究していく必要があります。

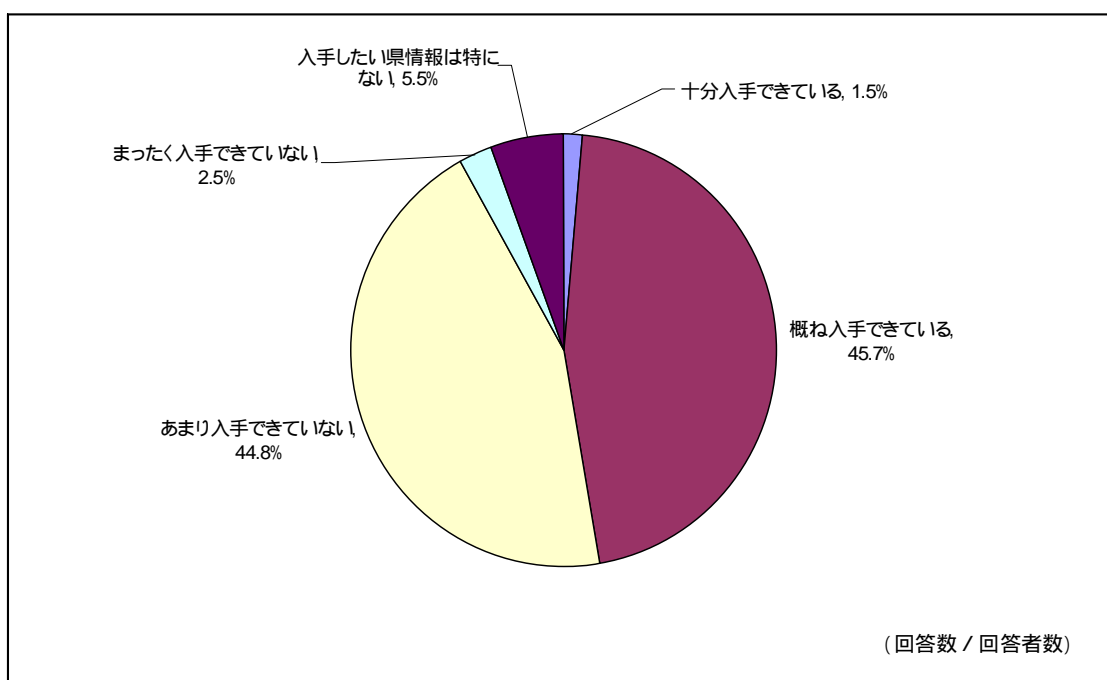
【設問6 県民の情報入手状況の分析】

あなたが得たい県の情報を、あなたは入手できていますか。

【選択肢】

- ・ 十分入手できている
- ・ 概ね入手できている
- ・ あまり入手できていない
- ・ まったく入手できていない
- ・ 入手したい県情報は特にない

〈図9. 情報入手状況〉



県の情報について「十分入手できている」、「概ね入手できている」が47.2%、「あまり入手できていない」、「まったく入手できていない」47.3%とほぼ同率となっています。現状では、約半数の県民の皆さんしか情報を入手できていないと感じられており、今後は、この数値を向上させることが重要となります。

【設問7 広報活動に関する自由記載】

県が実施している広報活動について、改善すべき点や新たに取り組むべき点など自由にご意見をいただきましたので、その一部を紹介します。

〔県政だよりについて〕

- ・表現が堅苦しい、色・文字・図が入り乱れて読みづらいなど
- ・地域ごとで小見出しのようなものを付けてもらえると分かりやすい
- ・県政だよりに掲載する情報を絞り込んでほしいのでは

〔インターネット・ホームページについて〕

- ・検索がしにくい
- ・階層が複雑で、見たい情報にたどり着くのが困難
- ・ニュースなどで取り上げられた情報は、その詳細を確認できるようサイトへ迅速な反映をしてほしい
- ・すべての情報が見えるように、もっと充実してほしい

〔その他広報媒体について〕

- ・テレビについて、時間帯の改善や魅力ある番組にしてほしい
- ・テレビやラジオの広報番組をもっとPRすべき
- ・携帯電話へ情報発信をしてほしい
- ・イベントなどは新聞の折込チラシを活用すれば
- ・新幹線の駅など公共交通機関でPRしたらどうか
- ・新聞やテレビは事件や不祥事が多いので、県の施策や情報を掲載してもらえようがんばってほしい

また、他に「財源が限られているなかで、一部の広報をやめるべき」と広報媒体の削減を求めるものや、「各世代によって情報収集の方法が異なるのでそれぞれの広報媒体をもっと充実すべき」などのご意見がありました。

今後も、県民の視点や費用対効果などを常に意識しながら、各広報媒体の特性を生かし内容の充実、改善に努めていくとともに、新たな広報媒体にも対応できるよう検討を進め、県民の皆さんに、適時かつ的確に、県の情報をお届けできるよう取り組んでいきます。